

1. 南大菩薩

【メンバー】鮎沢、外池、川名、斎藤、河野、小野、大野、細野、山内、深井、白石 OB

【日程】1986 年 4 月 28 日～29 日

4 月 28 日

中央本線初鹿野駅－湯ノ沢峠－大蔵高丸－大谷ヶ丸－鎮西ヶ池(幕営)

4 月 29 日

TS－滝子山－藤沢川－中央本線初狩駅

別にどうということのない山なのだろうが、何しろ初めての山行である。初心者である私は勝手もわからず、戸惑うことが多かった。

幸い当日の天気は快晴である。春の花に包まれた集落を後に、峠へと車道を行く。峠の直前でようやく沢沿いの山道にかわる。残雪もあり、足場も悪くかなりへばったところ峠に着く。さらに大蔵高丸へは非常な悪路急登。私にとっては、際限ないかの如く登りが続く。そろそろ足の上げ下げが怪しく思えてきたころようやく頂上へ。広く展望のよい頂上からは名も知れぬ山々が遠くながめられ、それだけでなぜかぼかんとしてしまった。今日の路程がこれで終わってしまったような放心状態、だが実はこのあとが長い。ゆるやかな広い尾根上の up down を経て雑木林の中を行く。見晴らしが悪かったり空に曇りが出たりしたせいもあってか、段々背中に荷の重さを感じてくる。

たしか大谷ヶ丸に着いたころ、忘れられていた遅刻者が追いつく。

頂上から縦走路へ向かう途中で山道に踏み込んでしまう。私は、実は地図も持たず、だったので迷うもなにもわからなかったが、なにも知らない気楽さでルートをさがす上級生の様子を内心興味深く観る。

さて、なんとか尾根に出るとテント場まではそれほどでもない。しかし、そう思っているとこれがなかなか着かないもので、実のところ、到着したときにはほっとした。

なんとも小さな池の前にテントを張るが、私には、この辺りでやるのが一番要を得ていず、ほとんど手が出せない。とにもかくにも一日目は暮れる。

翌日はかなり日が高くなってからの出発。ああ頭が痛い、気持ち悪い、吐き気がするなどと言いながら滝子山山頂へ。山頂はものすごく荘大な展望が開ける。目前にどっしりと構えた富士山の山腹をからむように伝う雲が山肌に黒い影を落とし、こんな風景に慣れない私を再び*然させる。

山頂からは下りだけであるが急な下りは実に疲れる。だがあとは特筆することもなく、尾根を下り沢に沿って下山。ようやく街並みが視界に入ったときは、たった一日ながらも人や家並といった日常の風景から隔たっていたことに気付く。まだこれから先が思いやられるが、何もできない私に、次の登山を期待させる山行となったことは確かなようである。(細野記)

高校で3年間山岳部をやっていた僕にとって、はっきりいってこんな山は面白くない。こんな山ばかり行っているなら僕の華麗なクライミングは上達しないだろう。先輩、もっとちゃんとした山に連

れて行って僕をヒマラヤサミッターにしてください(山内記)

用事(成城の女の子に会いにいきました)があつて行けませんでした。これからは、ちゃんと参加します。(井上記)

2 年生の O 先輩がとってもエッチなのでびっくりしてしまいました。オシリをむきだしにしてせまってきた。そして OΔ×?……。いやっ、とても私には書けないわっ。(深井記)

<これはなんだろう?>

つらいビバークだった。みんなの顔を一目見たかった(白石)

2. 北岳大樺沢二俣(定着)、そのご三伏峠まで縦走

【メンバー】鮎沢、外池、斎藤、河野、川名、小野、大野、細野、

【日程】1986 年 5 月 23 日～29 日

毎日の天気図が挿入されているが、デジタル化できず

5 月 24 日

<バットレス隊> 鮎沢、外池

TS(4:20)ーピラミッドフェース取付(5:40)ー横断バンド(7:15)ー四尾根スタート(9:30)ー枯木テラス(10:45)ー中央稜ノーマルルート取付(12:00)ー北岳頂上(14:55)

鮎沢、外池は先発で二俣に入りバットレス(ピラミッドフェースー四尾根ー中央稜ノーマルルート)を登る。

<本隊>

甲府駅(5:30)ー夜叉神荘(6:45)ーアカヌケ沢(10:20)ー二俣 TS(12:00～14:00)ー雪上訓練ー雪上訓練終了(16:00)ーTS(16:25)

14:00 のトランシーバー交信によりバットレス隊があと 1 ピッチで終了することを確認する。TS へは本隊・バットレス隊ほぼ同時に到着。林道歩きはひたすらダルかった。

5 月 25 日(曇り→曇→晴れ)

雪上訓練出発(5:30)ー雪上訓練場所(6:10 曇)ー搬送をしながら TS へむかう(8:30)ーTS(9:15～10:00 晴れ)ーTS 発(10:55)ー吊尾根(12:30)ー八本歯のコルーTS(14:30)

雪訓では歩行訓練、確保技術(肩がらみ、腰がらみ、スタンディングアックス)訓練をする。ピッケ

ルストップは、雪がやわらかすぎるため、明日にもちこす。フィックスの張り方、ユマーリングも簡単に説明する。その後、搬送。またしても、川名が包まれたのでした。

この日は、天気は朝のうち悪いが回復する見込みだったので、斎藤、河野は予定通り 24 日鮎沢らのとったルートと同じ岩登りをするはずだったが、6:10 頃から天気が悪化したため、それは見合わせた。しかし、10:00 頃から晴れ出して、全く皮肉な天気だった。あまり天気が良くなかったために雪訓も早めに切り上げたのにね。

それで、10:00 から TS でポーツとしているのもつまらないということで、吊尾根漫遊にでかけたのだ(斎藤、小野、大野は留守番)。なかなか良いピッチで吊尾根に出、天気も良く最高に爽快！八本歯からの下りが(一年生がいるので)危ぶまれたが、難*さほどなくある程度降りてからのシリセードも快感だった。

<概要>

大樺沢は、雪は残っていたがグチャグチャでピッケルストップの* * * * *ところ* * * * *が遠かった、というのが難点だった。しかし、一年生の雪上訓練のメニューは例年の水準は確実にこなしたといえるだろう。縦走では、一年生が途中で滑るということがおこり、上級生の指導に検討が要請される(原稿のママ)。しかし、雪の残る道をはまりつつも長い行程を概して良い雰囲気* * * * *のなかでこなし、好天に恵まれたこともあり、充実した良い山行だったのではないだろうか。

5 月 26 日(晴れ)

<バットレス隊>(斎藤、河野、川名、小野、大野)

出発(5:20) - 下部岸壁取付地点(6:50) - d ガリ一登攀開始(7:30) - 四尾根下部より 2 ピッチほど下の岸壁(9:30) - 北岳(15:30) - TS(17:30)

<雪訓隊>

雪訓(5:40~6:50) - 北岳(12:00 右俣経由) - 八本歯のコル(13:00) - TS(13:35)

四尾根隊は人数が多いこともあったがそれにしても時間がかかった。斎藤君はダルかったろうけど、トツテモトツテモ爽快で楽しめた岩登りだった。

右俣は急な雪壁がこれでもか、これでもかとばかりに続き、強い日差しのせいもあって大変疲れたが、それだけに稜線に飛び出した時はうれしかった。日本第二の高峰の頂上に立って無邪気に喜ぶ一年生の顔が印象的でした。

5 月 27 日(快晴)

起床(5:00) - TS 発(6:45) - 八本歯のコル(9:30) - 北岳山荘手前 細野落ちる(10:25) - 細野登ってくる(10:45) - ルート工作完成(11:15) - * * * 完了(11:55~12:10) - 中白根山(13:00) - 間ノ岳(14:10) - 熊ノ平(16:25)

北岳山荘手前のトラバースで雪が硬くなっているところ。そこを外池の次 2 番目に歩いていた細野足を滑らせる。その下の傾斜は緩めで雪もしまっていなかったため、速度はつかずすぐ止まるように見えながらなかなか止まらず、結局ゆっくりと 35m ほど滑った。半そでを着ていたため両ひじを大きくすりむき痛そうだったが、他にけがはなく良かった。鮎沢がすぐ降りてゆき、細野のザックを背負い一緒に登ってくる。その間齋藤、外池がルート工作し他はゼルプストをつける、と事後処理は良かったと言える。

しかし、経験がまだほとんどない一年生を伴っていたことを考えると、上級生の指導に検討すべき問題点があったのではないか。

あと、“野菜がない！”事件がおこった。気をつけましょうね。

5 月 28 日(晴れ→曇り)

起床(4:00)－TS 発(5:45)－新蛇抜山(7:55)－北荒川岳手前(9:45、10:15 まで道をさがす)－2,701m 付近(10:55)－塩見岳の肩(11:55)－塩見岳(12:55)－三伏峠小屋(17:00)

遠くから見た塩見はまっ白だったので、フィックス張りまくりで登るのでは?という不安があったが急な所(肩までの登り)には雪は全くなく、肩から頂上までの稜線上は緩やかだったので雪はついてはいたが不安はなかった。

下りも問題なく、小屋も見える！あとは下るだけ…。しかし、ここからが実は長かった。明日のことを考えて三伏沢小屋でなく峠小屋に行ったので、なかなか着かずしかも登り。明日は降りるだけだからということで天気図もとらなかった。着いた峠小屋には水がなかったので、鮎沢・小野が沢小屋まで水汲みに行ってくれた。強い！！御苦労さまでした。

5 月 29 日(曇り→雨)

起床(6:00)－TS(7:30)－沢井(11:00)

ダラダラダラ～と降りて行ってタクシーを待って雨宿りしていたら民家のおばあちゃんが家の土間を貸してくださった。“娘”と呼ばれちゃった～もんね。

親切にしてもらってなにか面白い話でもできればよかったのだけれど、いまいち言葉もよくわからずちゃんと話ができず悪いような気持ちにもなった。

齋藤、外池、川名、井上は伊那の石川 OB のところに寄って御馳走してもらいました。(ともこさん、ごちそうさま)

(川名)

あいかわらず乙女チックしている私ですが、こんな私でももう卒業です。就職したら今までお世話になった部員の皆様におごりまくってあげるつもりです。期待していてね♡♡(川名)

3. 三ツ峠

【メンバー】鮎沢(L)、外池(SL)、河野、斎藤、川名、小野、大野、井上、細野、山内

【日程】1986 年 6 月 19 日～23 日

例年どおり梅雨の合間と授業の合間をぬって三々五々三ツ峠に集まって岩登りのトレーニング。今年は、長いルートの特レースを目標にしたので、左フェースや中央フェースに行く者が多かった。各自の実力に合わせていろいろなルートに登りまらずの成果だった。

なかなかおもしろかった。また行きたいです(一年 井上)

やめてやる、やめてやる、やめてやると思いつつ(一年 細野)

何だこの程度。鮎沢さん今度僕がリードしてあげますよ(一年 山内)

三ツ峠では文さん入山で、私と斎藤さんが先発で入山する予定でした。それなのに、わたしはそれまで甲斐駒に行っていて、下山が遅れ、1 日遅れの入山となってしまいました。斎藤さんすみません。なんでも、斎藤さんは三ツ峠の駅で 4 時間以上も待って、同日入山する予定だった小野君と一緒に山に入って行ったそうですね。本当にすみません。(大野)

三ツ峠の入山は待たされまくって悲惨だったがそれでも駅のおばさんに草団子をもらったり、近所のおばあさん達とお話したりして暇をつぶした。まアしょうがないさ。(斎藤)

4. 日和田

【メンバー】鮎沢(L)、外池(SL)、河野、斎藤、川名、小野、大野、井上、細野、山内

【日程】1986 年 7 月 9 日

三ツ峠であまりできなかった確保・救助技術訓練を小雨のなか日和田北面の小岩場で行う。コーチがおらず、こういった技術は独学せざるをえない我々にとって、書物や人の言葉から得た知識を実地に応用してみる機会を積極的に設けるのは良いことだと思う。

身体と器具併用のビレイ、自己脱出、負傷者の搬出、アプザイレンの仮固定等いろいろ試してみた。

5. 剣岳(夏山合宿) 前半定着

【メンバー】鮎沢(CL)、外池(SL)、川名、斎藤、河野、小野、大野、井上、細野、山内

【日程】1986 年 7 月 23 日～8 月 12 日

前半は剣岳真砂沢に定着して、以下のようにパーティー編成する。

A 隊: 鮎沢(L)、大野、細野

B 隊: 河野(L)、小野

C 隊: 斎藤(L)、川名、山内

D 隊: 外池(L)、井上

後半は、以下の 3 パーティーに分散

上ノ廊下(主に沢登り) : 斎藤(L)、外池、大野

槍・穂へ縦走 : 河野(L)、小野、細野、山内

後立山 : 鮎沢(L)、井上

7 月 23 日

19:00 上野駅集合、21:01 発急行「能登」で離京

7 月 24 日(快晴)

富山駅(4:48)－(電車、ケーブルカー、バスを乗り継ぎ)室堂(8:20～8:50)－雷鳥沢(9:25)－剣
沢御前小屋(11:50)－真砂沢ロッジ BC(15:27)

40～50kg の重荷、照りつける陽光のためハードな入山となる。

7 月 25 日(晴れ)

BC(6:06)－平蔵谷雪上訓練(8:00～12:15)－搬送訓練(12:15～13:00)－平蔵出合(13:00 自由
解散)－BC(15:00)

平蔵谷にてピッケルストップ、確保練習を実施。

7 月 26 日(曇り)

BC(6:03)－平蔵谷から平蔵のコル(8:32)－剣岳頂上(9:12)－長次郎のコル(10:15～11:30 ト
ラバース訓練実施)－長次郎谷を下りながら雪訓－BC(13:40)

天候悪化の恐れがあるため、剣岳アタックの後雪訓(ピッケルストップ)実施。

7 月 27 日(曇り)

<A 隊、B 隊>源治郎尾根～本峰北壁

BC(4:30)－取付き(5:15)－尾根上(7:20)－I 峰上(8:15)－アプザイレンのコル(9:20)－北壁

A 隊 L1 へ 本峰頂上(13:20)－BC(15:00)

B 隊 L2 へ B 隊 L2 取付き(10:30)－登攀開始(11:00)－本峰頂上(12:40)－BC(15:00)

今合宿最初の岩登りということで一番乗りを目指して取付きへと向かったが、理科大がすでに取
付いていた。われわれは、ルンゼどうしに行くことにしたが最初のザイルピッチはさすがに緊張し

た。落石に神経をつかいながらルンゼをつめ、尾根上に出てしまえばあとは体力の登り。アプザイレンの科尔からは少しでも楽をしようとトラバース気味に北壁へ。

取付き付近ではどれが L2 かをめぐって見解がわかれたが、B 隊がそれと確信して挑んだ稜はやはり L2 で、筆者は L1 稜を見て思わずニンマリとしてしまった。L2 は決して難しくはなかったが印象深井岩登りだった。

<C 隊>ハッ峰VI峰 C フェース

取付き(12:45)ー終了(15:30)

簡単なルートだったので、あまりルートを気にせず好きなところを選んで登ったが、途中、垂直に近いクラックで行き詰まりそうになり A0 で脱出する。

<D 隊>ハッ峰～同VI峰 C フェース

BC(4:30)ー長次郎谷Ⅱ、Ⅲの科尔への分岐ーハッ峰Ⅰ峰(7:58)ー同Ⅳ峰(10:00)ーⅤ、Ⅵの科尔(12:00)ーⅥ峰 C フェース取付き(14:30)ーC 隊は RCC ルート、D 隊は剣稜会ルートを経て全員登攀終了(16:07)ーⅤ、Ⅵの科尔(16:50)ーBC(17:40)

Ⅰ、Ⅱの科尔へ出るつもりがⅡ、Ⅲの科尔に出てしまった。剣稜会ルートでは、登攀待ちのため時間がかかり、C 隊より 30 分遅れる。翌日お世話になるとも知らず、ここで D 隊は前を登っているパーティーに小声で毒づく。

7 月 28 日(晴れ→曇り)

<A 隊、B 隊>Ⅵ峰 C フェース、ハッ峰上半

BC(4:40)ーC フェース取付き(6:40)ーC の頭(9:30)ーハッ峰の頭(11:15)ーBC

C フェースの取付きへ急いだものの、すでに 4 人のパーティーがとりついていた。ここから A 隊は RCC ルート、B 隊は剣稜会ルートに行く。直接岩にとりつくには急なので、B・C 間ルンゼの雪渓より岩の緩斜面に降りる。C フェースは岩質もしっかりしており、登りやすい。剣稜会ルートはリッジ沿いに快適な登攀を楽しめるが、先行パーティーがすぐ前につまっているので興味をそがれた。

A、B 隊とも同時に登攀を終えてハッ峰上半へ向かうがこちらはルートもわかりやすく快適。

<C 隊、D 隊>北方稜線～剣岳～剣岳南壁(ロングラン 小縦走)

BC(4:52)ー二俣(5:28)ー池ノ平小谷(7:28)ー大窓(10:04～10:30)ー大窓の頭(11:35)ー小窓ビバークポイント(BP 15:00)

北股で山内、足を滑らし池に落ちる。大事なし。大窓からはヤブコギ。14:00 頃雲が多くなる。道を探したりなどして小窓の手前で時間がかかる。

7月29日(晴れ)

<A隊、B隊>ハッ峰マイナーピーク東面スラブ～ハッ峰下半

BC(4:35)－三ノ沢右折点上(5:55)－マイナーピーク上(10:45)－I峰上(12:30)－IV峰上(15:00)－V、VIコル(16:20)－BC(17:05)

東面スラブの取付きでは雪渓を降りるのが早すぎたために、正規よりも大分左から登ることになりもろい草つきのいやな登攀を強いられた。全長 620m という数字からもスピードが要求されているだけに、途中ランニングをとることもゆるさず。フリクションの良く効くスラブをひたすら登った。一般に平易な登攀だ。

上部核心部はプロテクションがないだけになかなか怖かった。マイナーピークからI峰、ヤブコギ・急登があり、ロックを終えた体にはきつかった。かてて加えて炎天と水不足が我々の気力をもさいなんだがI氏の叱咤と残雪とに励まされ、下半縦走完遂にむけて頑張ることができた。

下半は上半にくらべルートが不明瞭で巻き道につまってアプザイレンするなどこずらされ、V VIコルに降り立ったときにはすでに4時をまわっていた。コルからの下りでは、下級生の雪渓技術のまずさにI氏が目をくもらす一幕もあったが、どうにか5時すぎにはベースに着き、C、D隊の「暖かい」もてなしをうけた。

<C 隊>

取付き(10:30)－剣岳頂上(12:50)

主にリッジ登攀の単調なルート。先行パーティーもあり、あまり面白くなかった。

<D 隊> 剣岳～剣岳南壁(ロングラン 2 日目)

小窓 BP(5:14)－剣岳頂上(9:15)－平蔵のコル(9:53)－本峰南壁登攀開始(11:00 C 隊 A2 稜 D 隊 A1 稜)－全員登攀終了(13:25)－平蔵のコル(14:00)－BC(15:40)

7月30日(快晴→晴れ)

<A 隊、B 隊> ロングラン第 1 日

BC(4:55)－右俣出合(5:55)－三ノ窓(8:40)－二股(9:45)－白萩川(11:35)－馬場島(13:45～15:25)－毛勝谷出合付近 BP(18:50)

剣から見た馬場島の遠さを思い、ひそかに？おそれていたロングランの日がきた。三ノ窓雪渓では O 女が大きく遅れ前途が思いやられたが、池ノ谷左俣は思ったより傾斜が緩く無難に下れた。続く小窓尾根の乗越では、悪路と草いきれ、長時間行動が重なり白萩川にたどりついたときはグロッキーだった。しかし、天は我々を見捨てなかった。どうにかこうにかたどりついた馬場島でひょんなことからバーベキューの席に招かれておもいがけずご馳走になってしまった。

ビール、焼いか、ソーセージ、トウモロコシ・・・のおかげで精力を回復した我々は、タライに残る冷麦に未練を残しつつ、一路東大谷目指してつき進み、渡渉を重ねビバーク適地にたどりついた

のはもう暮れかかるところであった。

<C 隊> 剣岳北壁 L1

取付き (11:30) - 剣岳頂上 (13:30)

グレードは低いが、高度感があり、これまでで一番爽快な登攀となった。

<D 隊> 源治郎尾根～剣岳北壁 L2

BC (4:53) - 源治郎尾根 - 源治郎尾根稜線Ⅱ峰 (9:20) - 登攀開始 (12:40 C 隊 L1、D 隊 L2) - 剣岳頂上 (13:43) - 長次郎谷 - BC

源治郎尾根に取付き始めたとき、大きな落石を落とされる。もう少しで大事故。途中から雲が多くなった。

7 月 31 日

<A 隊、B 隊> ロングラン 第 2 日

BP (5:00) - 東大谷出谷 (6:15) - 富高ルンゼ出谷 (9:40) - 中尾根上 (13:00) - 剣岳 (14:50) - BC (16:30)

東大谷にはいると堅い雪渓がつづく。中俣の雪渓の大滝を右から高巻いたがここが落石の巣で非常に苦労し痛い思いもする。中尾根に出てすぐのチョングラピークは取付きを間違えたか不安定な草つきの岩で、K はずり落ちるし O 女は大落石をするわで危うい登攀であった。

ピークに立った時、ポツリポツリ来たので、一瞬いやな予感がしたがどうにか天気はもってくれた。剣の頂上に立ったときは何とか今日中に帰れると皆ホッとした。文字通り長いロングランだった。

小縦走とは言い難い。

(K)

<C 隊> ハッ峰Ⅵ峰 A フェース 魚津高ルート

取付き (7:00) - 終了 (9:40)

1 ピッチ目のⅢ+の凹角がなかなか面白く、フォローに手間取った。

<D 隊> ハッ峰Ⅵ峰 A フェース 中大ルート

BC (5:05) - 長次郎谷 - 登攀開始 (6:35 ハッ峰Ⅵ峰 A フェースの C 隊: 魚津高ルート、D 隊: 中大ルート) - 全員登攀終了 (9:35) - ハッ峰の頭 (11:55) - 長次郎谷 - BC (13:00)

今回の定着合宿は A、B と C、D との別れ過ぎてしまったという反省が出た。剣の岩はもろいところが多く、難儀したという声もあった(井上)

8 月 1 日 (晴れ)

源治郎尾根 I 峰平蔵谷側

【メンバー】鮎沢、小野

下部中谷ルート 取付き(5:45)－終了(9:20)

上部成城大ルート 取付き(10:45)－終了(13:17)

定着最終日、中谷ルートは浮石に苦しめられる。前日までの疲れのせいもあってか小野はパニック。そのため、パートナー間の不和に陥る。何よりも実力不足を痛感(小野)

中谷ルートの核心部のトラバースとチムニーはフリーでリードできた。成城の核心部の左上トラバースは高度感に負けて数ポイントの A₀、残念！！両ルートとも粗い白い花崗岩にラバーソールが吸いつくようで楽しいルートであった。

VI 峰 D フェース富山大ルート～チンネ左稜線

【メンバー】斎藤、外池、河野

出発(4:00)－取付き(6:25)－D フェースの頭(9:00)－左稜線取付き(11:10)－T5(13:20～14:50 順番待ち)－登攀終了(16:50)－BC(18:00)

富山大ルートは、IV A₀の1ピッチ目がおもしろい。D フェースの頭からチンネへ向かう途中クレオパトラニードルから谷を降りてしまい手間取る。左稜線は T5 までの下部は全くの岩稜でおもしろいのは T5 から1ピッチ目の IV A₁ のピッチだけである。T5 に先行パーティーが詰まっていた1時間半強風の中を待つ。核心部は A1 とあるが、私は残念ながらピトンに足をかけてしまったが、十分フリーで登れそうだ。この1ピッチのために他の十数ピッチを登ったようなもので、いまひとつのルートだ。(斎藤)

6. 夏合宿 後半縦走

穂高隊

【メンバー】河野(CL)、小野(SL)、細野、山内

【日程】1986 年 8 月 2 日～9 日

8 月 2 日(快晴)

真砂沢 BC(9:35)－剣沢 TS(12:00)

8 月 3 日(晴れ)

TS 発(4:50)－別山(5:43)－富士ノ折立(6:48)－一ノ越(7:56)－獅子岳手前(9:45)－ザラ峠(11:15)－五色ヶ原 TS(12:09)

8 月 4 日(雨)

TS 発(5:10)－2 ピッチ 刈安峠(7:15)－2 ピッチ 平ノ渡場(9:30～10:00)－黒部川出合(11:35)－奥黒部ヒュッテ TS(12:45)

8 月 5 日(雨)

TS 発(5:16)－東沢遡行、3ピッチ 三ノ沢－3ピッチ ビバーク適地(11:24)

8月6日(晴れ)

TS 発(4:45)－2ピッチ 遡行終了(7:20)－東沢乗越(8:45)－水晶小屋(9:35)－水晶岳(10:20)
－水晶小屋(11:00)－ワリモ、鷲羽コル(12:00)－三俣山荘 TS(13:13)

8月7日(晴れ)

TS 発(4:43)－2ピッチ 双六小屋(6:27)－3ピッチ 千丈沢乗越(9:35)－槍ヶ岳 TS(10:35)

8月8日(晴れ)

TS 発(4:38)－2ピッチ 南岳小屋(6:27)－2ピッチ 北穂高岳山頂(9:12)－2ピッチ 涸沢岳山頂
(11:31)－2ピッチ 涸沢 TS(13:15)

8月9日(晴れ)

TS 発(5:13)－2ピッチ 奥穂高岳山頂(7:12)－コブの頭(8:09)－天狗の頭(9:20)－西穂高岳手
前(10:29)－2ピッチ 西穂山荘(12:37)－2ピッチ 上高地(14:40)

3日獅子岳付近で山内右足首軽く捻挫。全行程にわたり、本人はかなりの苦難を強いられる。東沢入谷に際しては、台風接近のため入谷すべきか否か難しい判断を強いられたが結局予定通り行く。

渡渉10回前後、雨天にたたられ震えながらの遡行。6日9時ころには乗越へ。今度は灼熱地獄の稜線歩き。この日、三俣 BC にて“Japan Action Club 事件”。7日縦沢岳で小野が落石、他パーティーに命中。幸いケガなし。西鎌をあえぎあえぎ登る。8日キレット越え、2時間余で通過。最後の夜は涸沢で楽しくとおもいきや余分の食糧を食い過ぎてぶっ倒れる。9日下山、帰京。

オレは JAC の小野だ！千葉真一とは家族ぐるみのつきあいだ。今度ジャッキー・チェンと共演することになっている。(小野)

この文章は、活動報告の余白にイタズラ書されたものか？(岡田)

後立山隊

【メンバー】鮎沢(L)、井上

【日程】1986年8月2日～12日

8月2日(晴れ)

BC(4:55)－池ノ谷乗越(7:00)－登攀開始(8:50 チンネ左下カンテ、左方カンテルート)－登攀
終了(13:20)－長次郎谷－BC(14:35)

チンネは風が強く、寒くて困った。

8月3日(晴れ)

BC(9:00)－剣山荘 TS(11:40)

8月4日(曇り→雨)

TS(4:30)－大汝山(6:30)－一ノ越(7:30)－黒部湖駅 TS(11:30)

台風 10 号のため、立山の稜線上では風雨強く五色ヶ原方面への予定を変更、黒部湖駅へ下る。途中、井上が右足登山靴が合わず、平の渡まで行くのは見合わせる。

8 月 5 日(曇り→雨→霧雨)

TS(2:50)－平の渡小屋(5:45)－船 平の渡場(6:25)－奥黒部ヒュッテ(8:55～12:25)－東沢途中 BP(標高 1,900m?あたり 16:10)

平の渡の一番便に乗るためヘッドランプをつけての歩きだしとなる。奥黒部ヒュッテでは、沈殿している上の廊下隊のテントに一時合流。東沢の一回目の渡渉で、鮎沢が左ひざ上の筋肉を痛める。肉離れに近い状態。

8 月 6 日(快晴)

BP(4:55)－東沢乗越(10:00)－烏帽子小屋 TS(15:15)

スペアの分のガソリン量に心配を覚え、神戸大 W.V.部烏帽子小屋にて少しわけてもらう。神戸大のワンゲルの方々有難う！

8 月 7 日(晴れ)

TS(4:40)－烏帽子岳－2,459m 地点(10:35)－針の木谷出合(12:47)－針の木小屋(15:55)

烏帽子岳はピストン。針の木谷下りで鮎沢は足の痛みで難儀。

8 月 8 日(晴れ)

TS(4:40)－赤沢岳(8:03)－新越乗越(9:27)－冷池 TS(13:36)

井上は鮎沢に遅れがちであった。

8 月 9 日(晴れ→曇り)

TS(4:25)－鹿島槍ヶ岳(5:45)－五龍岳(9:45)－唐松山荘 TS(12:34)

8 月 10 日(晴れ→曇り)

TS(5:07)－天狗山荘(8:33)－白馬山荘(11:35 頃)－白馬岳山頂(12:10 頃)－雪倉避難小屋(13:52 泊 無人)

白馬頂上あたりで雄大積雲多くなり曇りとなる。天候に不安が残り、雪倉岳頂上付近までいくことはやめる。

8 月 11 日(曇り→晴れ→俄雨)

雪倉避難小屋(4:33)－朝日岳(7:43)－黒岩山(10:43)－犬ヶ岳(13:35)－梅海山荘(13:55 泊 無人)

きれいなところだった。

8 月 12 日(晴れ→曇り)

拇海山荘(4:50)－白鳥山(8:03)－坂田峠(9:50)－親不知(11:45)

どこまで続く山道ぞ。いつか終わるんだという希望をたよりに只管歩きました。(井上)

上の廊下隊

【メンバー】斎藤(L)、外池(SL)、大野

【日程】1986 年 8 月 2 日～10 日

8 月 2 日(晴れ) 真砂沢(定着 BC)～剣沢

出発(9:40)－剣沢(12:00)

定着合宿において、好天に恵まれ沈なしで全日行動したため、この日は定着用の沈を使い剣沢までとする。(計画では五色ヶ原まで)

荷が思ったより重い。

8 月 3 日(晴れ 風強) 剣沢～五色ヶ原

出発(4:50)－富士の折立(6:50)－一の越(7:55)－ザラ峠(11:15)－五色ヶ原(12:10)

剣沢のテント場は一般登山客や夏スキーを楽しむ人々が多く、深夜まで騒ぎが続き寝つかれない。富山大学立山研究室のある竜王岳の下りで同行していた穂高隊の山内が捻挫し以後ペースが鈍る。

五色ヶ原では、かねて根本 OB より教えていただいた友田さんの遭難碑を探すが小屋の人に聞いてもあいまいな答えしか得られず、一時間ほど探すが見つからなかった。しかたなく、原っぱの中央付近でご冥福をお祈りした。

8 月 4 日(雨) 五色ヶ原～奥黒部ヒュッテ

出発(5:10)－平の渡し(9:30)－対岸(10:20)－奥黒部ヒュッテ(12:30)

台風の影響で雨が降る。以後の遡行が気にかかる。

8 月 5 日(雨) 沈

台風 10 号による雨のため沈。雨量は少ない。ここまで一緒だった穂高岳隊は東沢を遡っていく。かわって後立山隊が 8 時ころ現れる。元気な顔を見てうれしくなる。10 時過ぎには彼らも東沢へ入っていった。

8 月 6 日(快晴) 奥黒部ヒュッテ～金作谷出合

出発(7:00)－口元のタル沢出合(9:40)－核心部の高巻き終了(11:20)－黒五跡(12:40)－花崗岩の美瀑(13:50)－金作谷出合(14:55)

台風 10 号はさしたる雨量を残さず温帯低気圧となって三陸沖へ抜けて行った。待つ甲斐あって

この日は晴天。気温が上がるのを待って入渓。もも位の渡渉で始まる。思ったより冷たさを感じない。雨具を着用していたおかげだろうか。

やや単調な河原歩き続けると、左岸に黒光りする下の黒ビンガがあらわれる。(黒部川上流のルート図が挿入されている。図に①、②の数字が記入されている)

①のポイントは、激流のため簡単にあきらめ右岸を高巻く。急なトラバースで、けっこう怖い。降り口のルンゼで大野が2mほど滑落し、大落石をおこす。時間とのかねあいと実力判断が難しくザイルを出す機会に迷ってしまう。

②が上の廊下の核心部と言われるところで、激流の右岸をへつって左岸に渡渉するところだ。右岸のへつる場所は、けっこう深く流れは非常に急だ。手がかりもしっかりしたホールドがない。水面と平行に浅いクラックが走っていてそれを手がかりとして外池がチャレンジする。流れを越えるポイントとなる岩の出っ張りのところで激流に押し戻される。かわって斎藤がリードする。クラックにピッケルをひっかけ、長身を生かしてなんとか突破する。

つぎにザイルに導かれて大野が行く。身長が低いのとパワー不足のため、突破できず、ザイルをフィックスして斎藤が補助をする。岩角に両足をかけ両手で大野の手をにぎり岩角を越える。やった！と思いつつフィックスを解除して確保しようとして戻ると、再び大野が激流にのまれてしまう。アゼンとしつつ救出にむかう。手がかりとして使ったピッケルが固定されており大野は激流にのまれて溺れそうになっている。ピッケルを解除してやり、ザイルに導かれて出発点まで押し戻される。大野はもうパニックしており、突破をあきらめ支点を回収して高巻くことにする。残念だった。

急な尾根を汗まみれになって大きく高巻く。2回のアップザイレンで沢身へもどる。黒五跡の広い河原を延々と行くうちにやがて谷がせばまり上の黒ビンガに入る。腰から胸近くの渡渉を繰り返すうち左岸に美しい滝が2つ続き金作谷出合に着く。

8月7日(快晴) 金作谷出合～薬師沢小屋

出発(6:40)－④の高巻き終了(8:40)－赤牛沢出合(10:30)－薬師沢小屋(14:40)－TS(14:55)

この日はしょっぱなから水泳。寒い一言につき、淵があらわれるのを恐怖するが次々と出てくる。③の淵は絶望的に泳ぐしかない。覚悟を決めて外池が飛びこむ。技術的には困難ではないが、飛びこむのに絶大な勇気がいる。寒い流れも結構あるし、本当にかっぱでも出てきそうだ。

④の淵は泳ぎ疲れて高巻く。高巻きはどれもシンドイ。美しいスラブを過ぎると赤牛沢出合。出合の小さな滝がおだやかな沢を思わせる。ここまでくるともうたいした難所もない。唇がふるえたのをもう遠い昔のここのように回想し親指を立てたような立石奇岩へ。沢はおだやかになり、右岸からA,B,C,D,E沢が落ちてきてしばらく行くと薬師沢出合の橋に出会う。そこから少し入った広い河原でピバーク。

8月8日(晴れ) 薬師沢小屋～赤木沢～薬師沢左俣～BP～五郎沢出合

出発(6:30)－赤木沢出合(7:15)－大滝上(8:25)－赤木沢終了(9:15)－赤木平(9:20)－右俣出合(11:45)－薬師沢小屋(12:20)－BP(12:45)－赤木沢出合(13:55)－五郎沢出合(15:05)

かねてから OB の評判のよかった赤木沢へ。出端から美しい滝の連続でこれまでの悲愴感のた
だよう上の廊下とは段違いの明るい気分。

巻き道は明瞭だがずぶ濡れになりながらシャワークライムを楽しむ。何度か滝つぼに落ちたりす
るがそれさえも爽快である。滝を次々とやりすごすうちにあつというまに大滝へ。これを巻くとどん
どん沢身が細くなり穏やかな源頭部へ。赤木平は広々として誰一人なく、広い高原を一人占めし
た気分でなんともいえない。

時間があつたので、30 分ほどのんびりする。薬師沢左俣はこれといって変化のない平凡なさわ
でただただ下る。13 時前に BP へ戻れたので、すこし進むことにする。赤木沢をすぎ五郎沢出合で
幕営。釣り人の姿がチラホラ現れる。

8 月 9 日(晴れ) 五郎沢出合～岩苔乗越～東沢乗越～東沢谷 1、937

出発(6:15)－登山道出合(8:15)－岩苔乗越(9:15)－東沢乗越(10:45)－1、937m(14:00)

上の廊下はすでに平凡となり雲の平から三蓮三俣蓮華か？へ抜ける登山道を越えると小川の
ような源頭部となって岩苔乗越へ出て上の廊下の遡行は終わった。水晶小屋を経て東沢乗越へ
出、明瞭な踏み跡をたどって東沢へ入る。解説書どおりの単調な沢でいいかげんあきあきしたとこ
ろで早めにビバーク。

8 月 10 日(晴れ) 1、937～奥黒部ヒュッテ～黒四ダム

出発(6:10)－奥黒部ヒュッテ(8:50)－針の木船着場(11:10)－対岸(12:30)－黒四ダム(15:40)

いよいよ最終日。うんざり三乗の東沢を三時間弱で突破しなつかしの奥黒部ヒュッテへ。タバコ
を調達し結構キツイ登りのある水平歩道で船着場へ。名前どおりの水平歩道を延々と歩いて観光
客あふれる黒四。

(斎藤)

個人山行編

7. 黒部丸山東壁緑ルート

【メンバー】岩崎(L)、丸野(以上、アスペン・クラブ)、鮎沢

【日程】1986 年 4 月 3 日～9 日

4 月 3 日(晴れ)

黒四ダム(9:45)－内蔵助谷出合(10:40)－緑ルート登攀開始(12:25)－最高到達点(17:00)－取
付(17:35)

積雪期というにはやや遅いが丸山の積雪期登攀を目指して雪に埋もれた黒部川を行く。完全な
春のポカポカ陽気で見上げる丸山東壁は中央バンド以外は夏壁だ。当初南東壁塚田・小暮ルー
トを予定していたが、乾いた岩にアイゼンをカリカリ言わすのもどうも、ということで人工主体の緑

ルートに取付く。1p 目のフリー以外は単調なボルトラダーで中央バンドの 15m 手前まで 3 ピッチフックスして下降。

4 月 4 日(雨ときどきみぞれ) 停滞

二つ玉低気圧の通過により終日みぞれまじりの雨が激しく降り続ける。テントは正面壁中央向かいの大岩上にはったのだが、1 ルンゼ、2 ルンゼから雪崩がでるとヒヤッとす。黒部名物の雪崩が夜になっても眠らせてくれなかった。ガスを通して見えるザイルが重そうに垂れている。

4 月 5 日(雪ときどきみぞれ)

やや冷え込んで雪となり雪崩もおさまってきたため登攀を再開すべく正午頃取付きに向かうが、ザイルがガチガチの氷づけになっておりベッシルのニューブロッカーは全くかみあわない。たちまちまっ白くなった壁を見上げながらむなしく引き返す。晩より晴れて星がのぞくが北西風強く冷え込む。

4 月 6 日(曇り～雪強し)

三陸沖に進んだ低気圧が異常に発達して冬型の気圧配置となり、激しい降雪。黒部の谷に再び雪崩の轟音がひびき始める。黒部の冬は初めての鮎沢は気が気でなく雪崩が出るたびにシュラフの中でナイフをにぎりしめていた。酒が尽きてみなに焦燥の色が濃い。

4 月 7 日(雪強し)

依然として冬型が続く新雪は 1m 以上。壁は黒い部分を探すのが難しいほどに真っ白。あいかわらず雪崩のオンパレードだがもう恐怖の感覚もマヒしてきた。しかし天気図によれば、移動性高気圧が張り出してきている。案の定夜は満点の星空となった。

4 月 8 日(快晴のち晴れ)

緑ルート取付き(7:35)ーフィックス終了点(9:55)ー中央バンド(11:55)ー大ハング終了(16:30)ー下降開始ー取付き(19:10)

ついに晴れた！！取付きまできついラッセルをすませ、ユマーリング開始。壁に陽があたりはじめると 1 ルンゼ、2 ルンゼ右岸壁から次々と雪崩が出て、なかにははるか下方のテントすれすれを通過して行くやつさえあった。正面壁も上部からのブロックと融水がはげしく体はもうビショビショ。中央バンドに着くころになると陽がかけりはじめ、濡れた体は実に冷える。それでも頑張っ大ハングを三人が乗っ越すころにはもう夕方。上部をあきらめたただちに下降開始。もう暗くなりかけているのに中央バンドからの下降で雪壁にザイルがくいこんで回収できなくなりユマールで登り返す一幕もあった。それでも何とか取付きまで降り着くことができた。

4 月 9 日(曇りときどき雨)

TS(8:10)－黒部ダム(10:00)－扇沢(12:10)－小日向山ゲート(13:35)

昨日の快晴をもたらした移動性高気圧は早くも東方に去り、次の気圧の谷が迫ってきている。このままではまた雪崩のまっただなか閉じ込められるのは必至なので、急いで下山することにする。入山時よりも多くのデブリで埋まった黒部川を駆け抜ける。長い長いトンネル歩きを終えて飛び出した扇沢は春の様相で、雪の合間からはフキノトウが顔をのぞかせていた。

8. 越沢バットレス(右ルートⅣ、左ルートⅤ)

【メンバー】斎藤、白石

【日程】1986 年 4 月 8 日

9. 笹子川、滝子沢左俣

【メンバー】大野

【日程】1986 年 4 月 8 日

遡行適期通年ということだったが、滝があるかと思えば小さいとはいえ雪渓になったりし、あせって早い時期に来すぎたと思った。

10. 戸隠連峰 P1 尾根～高妻山縦走

【メンバー】鮎沢、河野、斎藤、外池

【日程】1986 年 4 月 29 日～5 月 1 日

4 月 28 日

上野発

4 月 29 日(晴れ)

長野駅－タクシー－上楠川－(1:30)－P1 尾根取付き－(2:00)－Peak 1－(2:00)－本院岳 TS
鮎沢は翌日下山のため先行－(3:00)－不動避難小屋

4 月 30 日(晴れ)

TS－(2:00)－八方睨み(外池は体調が悪いのでここより下山(2:00)－奥社入口－(1:30)－不動－(3:00)－高妻山－(1:30)－不動避難小屋 TS
鮎沢は高妻山往復後不動より下山)

5 月 1 日(晴れ)

TS－(2:00)－戸隠牧場

縦走路に出ても未整備なのであまり気が抜けなかったが P1 尾根は雪が少なく楽だった。天気が良くまた高妻山も百名山の一つだけあり、さすがに美しく非常に思い出に残る山行となった。

下山して食べた戸隠そばは大変おいしく、また長野駅で売っている‘お焼き’も美味である。何度

でも行きたい山である。

なお、仲間割れしたとの風雪が一部に流れているが、それは根拠のない単なる噂である。我々は鉄の団結をもって P1 尾根を登攀し、和気あいあいと縦走した。そして、本院岳では固い握手をかわし永遠の友情を誓いあったのであった。チャンチャン！

11. 鳳凰三山

【メンバー】川名 (CL)、小野、大野

【日程】1986 年 5 月 1 日～3 日

5 月 1 日

夜発。その日のうちに夜叉神の森まで入山

5 月 2 日 (雨)

夜叉神の森出発 (7:30) - 夜叉神峠 - 大崖頭山 - 南小御室小屋 TS (13:30)

5 月 3 日 (雨)

TS 発 (7:00) - 薬師岳 - 観音岳 - 鳳凰小屋 - 御座石鉱泉へ下山 (14:00)

予定では白峰三山縦走であったが、夜叉神山荘のおじさんと下山者の話から到底無理と判断。鳳凰へと変更。終始雨にたたられ、南アルプス初体験の筆者は南アが嫌いになる。なお、湿雪のラッセル随所にあり 3 日は一部アイゼン使用。

12. 不帰Ⅲ峰 B 尾根

【メンバー】鮎沢

【日程】1986 年 5 月 3 日～4 日

5 月 3 日 (曇り)

八方 (7:00) - 八方山 (10:10) - 唐松山荘 (12:30)

5 月 4 日 (曇りときどき晴れ)

山荘 (4:45) - B 尾根末端 (5:20) - 終了点 (6:45) - 山荘 (7:15) - 白馬駅 (11:15)

戸隠での上級生山行が不本意な結果に終わったため、そのモヤモヤをはらすべく風邪を我慢して不帰東面に入ったが、発熱による悪寒と関節の痛みがひどくⅢ峰 B 尾根一本に終わった。

ルート自体は雪の状態が最高であったので、極力岩をさけて雪の部分をつなぐようにして登ったため、ザイルは使用せず。しかし、雪の不安定な厳冬期にはかなり厳しい登攀を強いられそうだ。

13. 剣岳池の谷右俣奥壁ドーム稜

【メンバー】岩崎 (L)、丸野 (以上アスペン・クラブ)、鮎沢

【日程】1986 年 5 月 7 日～9 日

5 月 7 日 (晴れ→曇り)

馬場島(7:35)－池の谷出合(9:30)－二俣 BP(12:10)

今回は剣岳のドーム稜から雄山東尾根を下降、赤沢岳西稜(猫の耳)を登って扇沢に下るという遠大な計画なので、鮎沢はいささかいれこみすぎるくらいにいれこんで入山。馬場島を登ってしばらくすると雨が降ってきたのでしばし天候待ち。しかしすぐ回復した。

池の谷へは小窓乗越経路で入るはずだったが、雪の状態が良いのでそのまま池の谷ゴルジュに入る。初めての池の谷ゴルジュを夢見心地で通過する。百数十 m ある側壁が今は 20m くらいしか顔を出していないのだから剣の雪はやはりたいしたものだ。

池の谷をたどっていると、頭上に右俣奥壁がガスの合間からのぞく。5 月というのに雪がベツリついてすごい威圧感だ。本当にあんなところを登れるのか?と不安になったが、剣尾根末端の岩小屋で酒を飲んでうちにそんなことは忘れてしまった。

5 月 8 日(快晴)

BP(5:55)－ドーム稜取付き(8:00)－上部岸壁基部 BP(16:25)

ドーム稜では 1P 目と 3P 目(核心部)以外のリードを申し渡され大変ビビった。幸いにも快晴で気温もたかかったので、やばくなると手袋をはずしてもいっこうに平気なのはありがたかった。それでもところどころに現れる人工とフリーのミックスはけっこう悪く、また中間部のハイマツ帯も岩と雪をミックスしたリッジになっていて全部スタカットでいったため、鮎沢は心身ともに激しく疲れた。

しかし、富山平野と日本海を背にしてのクライミングは楽しかった。ビバークもよいテラスがあり、シュラフにくるまってウイスキーをやりながら富山平野の灯かりと満天の星空をながめていろんな話をするのは最高の気分だった。

5 月 9 日(快晴→曇り→霧→雨)

上部岸壁開始(6:50)－剣尾根の頭(7:20)－本峰(8:00)－別山乗越(12:00)－一の越(15:30)－東一の越下のコル(16:20)－タンボ沢出合(17:35)－黒部ダム(18:30)

上部の核心部マンメリークラックは氷がつまっていた見るからにイヤラシイので右側の雪の全くないフェースを登る。2 ピッチでドーム稜を足下にした。

剣の頂上には誰もおらずすばらしい 360 度のパノラマを独占。さアつぎはあの猫の耳だと出発するが前日の疲れからいっこうにペースがあがらない。おまけに立山頂上では濃いガスにまかれルートを失う。なんとか一の越に達し東尾根下降をあきらめ、東一の越からタンボ沢を下ることにする。くさった雪はすねまでもぐり、ときならぬラッセルに難渋する。東一の越の下のコルに達しあとは下だけと尻セードに入るが、鮎沢は少し下ったところで雪崩を誘発してまきこまれ、数十 m 流されてとまってことなきをえたがメガネを紛失。ド近眼の鮎沢はメガネがないと迷子同然なので今山行はここで断念。岩崎氏に手をひかれるようにしてやっとのことでダム駅の待合室に転がり込む。翌朝、ダムの外へ出てみると皮肉にも陽光が黒部の谷にさんさんとふりそそいでいた。

14. 滝川・豆焼沢

【メンバー】外池(L)、河野、大野、井上

【日程】1986 年 5 月 10 日～11 日

本に注意事項の書いてある滝などより、なんでもないとこが荒れていて意外に苦労した。たき火が大成功。スタレ状美瀑は美しくかつ快適に登れた。下山は雨の中。

恐ろしかった(井上)

15. 文部省登山研修会春山研修

【メンバー】小野

【日程】1986 年 5 月 10 日～16 日(うち、10,11 日は研修所で講義)

5 月 12 日

室堂より一の越経由で剣沢に入山。

5 月 13 日

雪訓(歩行、ピッケルストップ、確保技術)

5 月 14 日

スタカット登攀、タイトロープビレー、搬送

5 月 15 日

天候不安定のため、剣アタック中止。午後から復習。夜、ビバーク訓練

5 月 16 日

雷鳥沢、地獄谷経由下山。室堂へ。

技術としては知らないものはなかったが、既知の技術を基本から再確認でき有意義であった。アタックができなかったのは残念。

16. 日和田(男岩南面クラック(IV)、男岩西面クラック(IV+)、女岩西面チムニー(IV))

【メンバー】斎藤、山内

【日程】1986 年 5 月 10 日

17. 日和田(女岩西面チムニー(IV)、女岩南面中央(III)、男岩南面右ルート(IV+))

【メンバー】斎藤、外池、細野、山内、井上、中村(WV 部)

【日程】1986 年 5 月 16 日

18. 鷹ノ巣谷遡行

【メンバー】小野

【日程】1986 年 6 月 1 日

鷹ノ巣谷出合(9:15)－源頭(12:00)－鷹ノ巣山頂(13:30)

初の単独沢登り。しかし沢の単独行などやるべきでない、と思った。どうしても思い切りに欠ける。遡行後稜線に出るまで一時間を要する。最短ルートをはずしたのだろうか

19. 笛吹川東沢鷄冠谷右俣

【メンバー】鮎沢(L)、小野、山内

【日程】1986 年 6 月 7 日～8 日

6 月 7 日

深夜、タクシーで東沢山荘まで入る。軒下ビバーク

6 月 8 日(晴れ→曇り→俄雨)

山荘(6:00)－鷄冠谷出合(6:30)－二俣(9:10)－奥の二俣(11:00)

一年生山内の沢登初体験だったが、見ている方がハラハラするくらい大胆に動きななかたのもしい。魚留滝と逆くの字の滝でスタカット。上部は同じようなナメ滝が延々と続きいささか飽きてしまった。戸渡尾根に出て木賊山往復後下山。

20. 富士山吉田大沢

【メンバー】鮎沢

【日程】1986 年 6 月 8 日～9 日

6 月 8 日

鷄冠谷よりおりた後、塩山駅にデポしておいた冬山装備をもって富士吉田へ。体カトレイニングのため、全行程歩くことにする。

6 月 9 日(晴れ)

BP(4:15)－佐藤小屋(6:30)－頂上(9:45)－佐藤小屋(11:30)－富士吉田駅(14:35)

8 合目まで夏の尾根道をたどってから大沢にトラバースする。雪は所々でくるぶしまでもぐるが靴のエッジがよく効くくらいのしまり具合でアイゼン不要。昨日の沢登りの疲れでバテバテになって山頂着。冬と同様烈風ふきすさび寒かった。帰りは大沢を一気に尻セードでとばす。

残雪期ならではの楽しみだ。七合目から夏道を下り、山頂とは打って変って灼熱のアスファルトの上をヒーコラ歩いて下山。

21. 笹子川トロクボ沢

【メンバー】大野

【日程】1986 年 6 月 10 日

天気もよく、沢も小規模で簡単でだからこそ楽しく、1～5 限全部履修しているのを無視して行った甲斐があった。

22. 奥秩父全山縦走

【メンバー】小野

【日程】1986 年 6 月 13 日～15 日

6 月 13 日

奥多摩駅発(4:29)－2P－鷹ノ巣(7:46)－2P－雲取山(10:39)－3P－**権現(13:55)－2P－将監小屋(15:45)－2P－笠取小屋(18:22)

6 月 14 日

TS 発(5:05)－2P－雁坂嶺(7:32)－破不山(8:34)－2P－甲武信小屋(10:13)－4P－国師ヶ岳(15:28)－大弛小屋(16:18)

6 月 15 日

TS 発(4:32)－金峰山(6:01)－大日小屋(7:29)－2P－瑞牆山(10:47)－瑞牆山荘－増富鉱泉へ下山(13:54)

3 日とも好天に恵まれ、1 年で最も日長が長い時期という好条件を活かし 3 日で快走。単独行はいいものだ。疲れたら 10 歩ごとに休んでも誰も文句を言わない。よかった！

23. 越後三山大縦走

【メンバー】外池

【日程】1986 年 6 月 13 日～15 日

6 月 13 日

午後発、小出駅ステーションビバーク

6 月 14 日(晴れ)

駅－(タクシー)－枝折峠－(4:00)－駒ヶ岳－(3:30)－中の岳避難小屋

6 月 15 日(晴れ)

TS－オカメノゾキー(3:40)－五龍岳－(1:30)－八海山－(3:20)－大崎

オカメノゾキーの悪場はたいしたことはなかったが、八海山は鎖場の連続で疲れる。雪は殆どなく、ヤブ漕ぎが続いたため、大変暑かった。ちなみに地酒‘八海山’は大変に美味しい。

24. 甲斐駒ヶ岳

【メンバー】大野

【日程】1986 年 6 月 16 日～17 日

天気が悪かったのが残念。荒れ切った登山道で下山中、道を間違え大変なめにあったがルートファインディング、ビバーク etc.についてずい分勉強になった。

25. 丹波川本流(3 級下)

【メンバー】斎藤、外池、小野、大野、山内

【日程】1986 年 7 月 17 日

上の廊下行のトレーニングとして水泳の出てくる沢を登ったが、初めてで新鮮だった。

26. 日原川本流(2 級上)

【メンバー】斎藤、外池、大野、井上

【日程】1986 年 7 月 20 日

27. 尾白川本谷

【メンバー】鮎沢

【日程】1986 年 8 月 18 日～19 日

8 月 18 日(曇り→雨)

竹宇駒ヶ岳神社(6:30)ー本谷と黄蓮谷との出合 BP(12:00?)

夏山合宿後半縦走の後立山のうるおいのない殺伐とした山歩きにウンザリしていたので、緑と清冽な水を求めて尾白川に入る。アプローチを溪谷道にとったが、最初のうちはしっかり整備されていても途中からは依然以前か?のままの荒れ放題で、所々でひどいやぶこぎをしいられる。

早めに見切りをつけて本谷に降りた方が得策。出合までに次々と現れる滝や淵にはよく探すと赤布のつけられた巻き道があり、それをたどると最小限の労力ですむようだ。

出合に着くとドシャ降りの雨となり、右岸のはりだした岩の下でビバーク。時計がこわれ時間がわからないので酒を飲んで寝たり起きたりをくりかえしていた。

8 月 19 日(曇りときどき雨)

BP(5:00?)ー三つ頭一駒本峰(10:40)ー竹宇駒ヶ岳神社

時間がわからないのでやみくもにとばす。本谷は出合から少し先まで白いナメ床と緑の水をたたえた淵がすばらしいコントラストをなして見事だが、そこからは崩壊の激しい河原歩きとなってしまう。しかし、滑滝沢出合で谷をふさぐ巨岩は、ルート図では右から巻くとあるが崩壊していて巻けず岩の下をぐりぬけるしかなくチムニー登りでぐりぬけたあとザックを吊り上げ大変苦戦した。

また源頭近くは枝沢とガレたルンゼが複雑に交錯してどれが本流かわからなくなり、六合岩室に

出るはずが三つ頭に出てしまった。頂上ではじめて人に会い、時間を聞いて意外に早いのにびっくりした。あとは黒戸尾根をかけ下る。本谷そのものよりも支流の西坊主ノ沢、滑滝沢等のほうに興味をそそられた山行であった。

28. 文登研夏山研修

【メンバー】小野

【日程】1986 年 8 月 23 日～29 日(23、24 日は研修所で講義と実習)

8 月 25 日

入山

8 月 26 日

別山の岩場で岩登り訓練

8 月 27 日

ハッ峰VI峰Cフェース剣稜会ルート、ハッ峰上半

8 月 28 日

危急時対策、人工登攀

8 月 29 日

負傷者搬送、下山

わずか一カ月の間隔をおいて剣稜会ルートに再度挑戦するという幸運を得た。しかも、今回はつるべで登り、はたしてナイフリッジでリードすることになった。簡単なルートだが、リードするとなるとプロテクションの取り方やルートファイディングなどこれまでになかったことが問題になり、これまでと全然ちがってくる。また、やたらとハーケンを打たされたがこれほどまでに徹底してハーケンの打ち方を学ぶことは他にはあるまい。

さらには、古タイヤを落としての大がかりな確保練習もある。このようなことは、一般には不可能なことであり、参加したかいがあったというものだ。来年以降もぜひ夏山講習会に参加すべきだ。

29. 北岳バットレス～甲斐駒ヶ岳赤石沢

【メンバー】鮎沢(L)、斎藤、引地(昭和 55 年卒 OB)

【日程】1986 年 9 月 13 日～17 日

9 月 13 日

広河原(17:05)ー御池小屋(18:25)

広河原で巡視員らしい男性から「二俣でテントが落石でつぶされた」とおどかさされ、御池小屋にベースを張る。雨が降り出し明日は登れそうにないので遅くまで酒を飲む。

9 月 14 日(雨→曇り時々晴れ)

起きた時はテントのフライをたたくほどの雨だったので停滞に決定。しかし、次第に明るくなりお昼頃には晴れてしまった。あわてて出発するクライマーもいたが、我々はこのんびりフキなどを摘んで煮込みそれをつまみにウイスキーを飲んで歌を歌っていたのだった。(内心は後悔の念でいっぱい)

9月15日(曇りときどき小雨)

御池小屋(4:05) - dガリー大滝取付き(5:30) - (下部フランケ) - 4尾根 2P 目終了点(7:15) - (4尾根主稜) - シュバルツェ・カンテ 1P 目終了点 - 枯木テラス(8:25) - 中央稜ノーマルルート開始(9:35) - 同終了(11:15) - 頂上(11:35) - 御池小屋(12:55) - 広河原(14:00) - (バス) - 北沢峠(15:00)

朝の大樺沢はクライマーが長蛇の列。それでも dガリー大滝に2番目に取付く。上智の服部さんはノーザイルで第5尾根支稜を登って行った。下部フランケ核心部VIのフェースでは、リードの鮎沢はA₀が入ったが引地氏はフリーでフォロー、すごい。ルートがわからぬままに4尾根に出、ザイルをたたんで4尾根を第2コルまでかけあがり、そこからシュバルツェ・カンテにアップザイレン。2ピッチで枯木テラスにぬけCガリーに2ピッチのアップザイレン。中央稜は混雑していたので、先行パーティーの登り方を無責任に批評して順番待ち。時折落石に脅かされながらも順調に登攀を終える。頂上は小雪が舞っていた。

広河原へ下山後引地氏は下山。鮎沢と斎藤はバスで北沢峠へ向かう。

9月16日(曇りときどき雨)

北沢峠(5:20) - 駒本峰(7:45) - Aフランケ基部トラバースバンド(10:30)

八合*からの下降路はAフランケの頭の*までは明瞭なのだがそこからがよくわからず、右往左往することしばし。とにかく八丈沢におりてしまうのが良いようだ。Aバンドではなくトラバースバンドに出ってしまったので、白稜会ルート取付きの小ハング下にツェルトを張る。時折ガスの切れ目からのぞくAフランケの大垂壁はさすがにすごい。人工主体ノルートなら登れたが、ルート図もないので酒を飲んでゴロゴロする。

9月17日(晴れ→曇り→雨)

朝起きるとなんと晴れている！壁も乾いているようなので、勇んで赤グモに取付く。大ジェードルのクラッククライミングと恐竜カンテ側壁のA1が何と言ってもよかった。ルートを誤ったり途中から雨が降り出したりしたので、やたら時間をくってしまった。今度はもっとトレーニングを積み快晴のもとAフランケ～Bフランケ～奥壁とつながりたい。

30. 広沢寺

【メンバー】鮎沢、井上

【日程】1986 年 6 月 16 日

ボクは鮎沢さんと広沢寺にやってきました。すでに男 2 人女 3 人のパーティーがいました。鮎沢さんがその男の人の一人を指して「あれが長谷川 恒男ダ」と言いました。意外にチビなのでボクはビックリしました。登り方もたいしたことなく、ボクは絶対ボクの方がウマイと思いました。

長谷川 恒男も小便をしました。ボルダーピッチで鮎沢さんが華麗に登ったところがどうしても越せずにボクがうんうん言っていると、長谷川さんがやってきて「ボクのフィーレを使いたまえ」と言ってくれたので喜んではいてみましたが結局登れませんでした。ボクのテクが悪いのではなくて靴が悪いんだい！！でもボクは嬉しくてそれ以来足を洗っていないので、足がくさくてしょうがないです。それ以来ボクは水虫に悩んでいます。誰かいい薬あったらちょうだいな。

(井上)

31. 越沢バットレス

【メンバー】鮎沢、河野、引地 OB

【日程】1986 年 6 月 14 日

32. 越沢バットレス

【メンバー】鮎沢、井上

【日程】1986 年 6 月 29 日